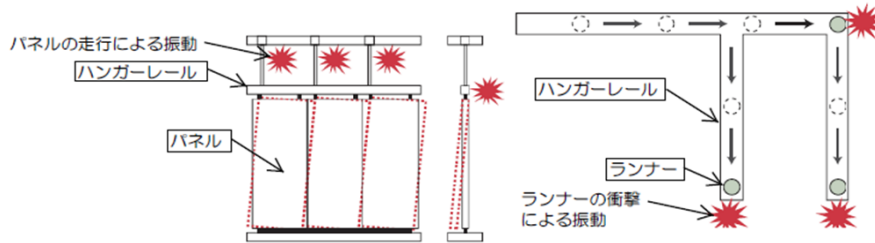


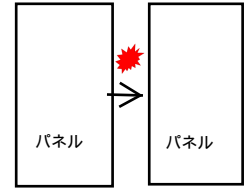
スライディングウォールの防振対策について

1 振動が起こる要因について

- ① ランナーがハンガーレールを移動する際の” **パネルの走行による振動**”
- ② ハンガーレールの壁端部、分岐部でレール側面にランナーが当たる際の” **ランナーの衝撃による振動**”



パネルセット時にパネル同士が
あたる際の”パネル同士の衝撃による振動”



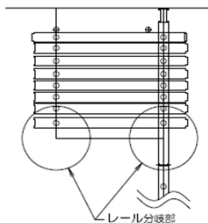
2 設計時の工夫

<1>建物

- ① 取付下地にH鋼を設置する。
- ② 直上フロアのレイアウト（会議室など静粛性が要求される部屋）とパネル収納部などの分岐部が多い箇所の位置関係に配慮する。
- ③ 分岐部が少ないレイアウトを提案する。

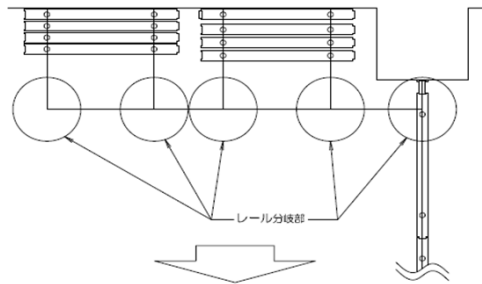
収納部 事例1 ○

レール分岐部が少なく、階上への
レール通過音も比較的少ない。



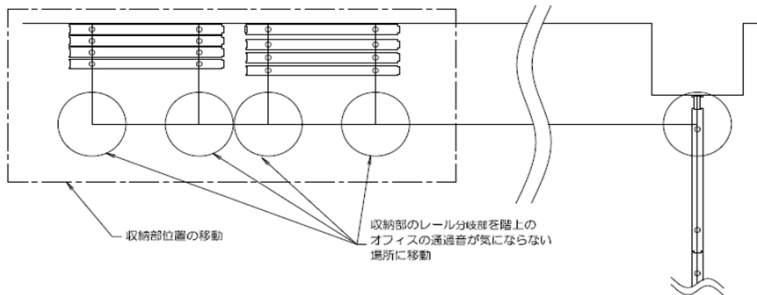
収納部 事例2 ×

レール分岐部が多く、階上への
レール通過音が多い。



収納部 事例3 ○

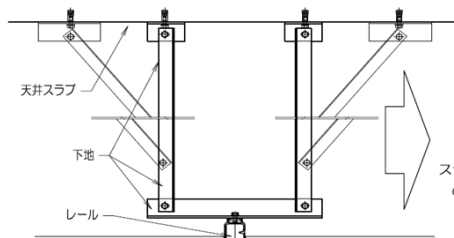
事例2をベースに階上のオフィスレイアウトを考慮し、
収納部位置を移動し分岐部での通過音発生位置を移動させる。



- ④ ハンガーレールの下地を防振仕様にする。（各社の仕様が異なります。）

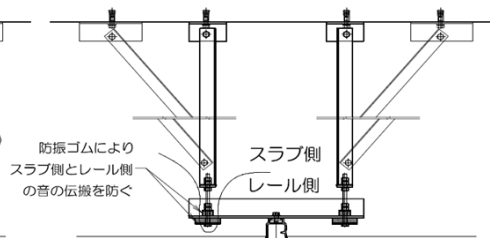
レール下地 事例1 ×

レール走行振動が直接天井スラブに伝わる。



レール下地 事例2 ○

レール走行振動を防振ゴムにより緩和する。



3 取扱い上の留意点

- ① パネルをゆっくりと動かす。（壁端部、分岐部付近は特に注意する。）
 - ・直線移動距離が長い場合はランナーの走行スピードが速くなりがちです。
 - ・パネルのランナー位置が判りづらいため、ハンガーレールの各分岐部に強く当たることがあります。
ランナー位置が確認できるようにパネル面の上部にマークを付けることも有効です。
- ② パネルを操作する人を限定する。（施設担当者や総務担当者など）

(ご注意) 防振対策を行っても振動や通過音は完全になくなるものではありません。
あくまでも軽減させるための対策案ですので、現場の環境によって効果が異なります。